

WHO ファクトシート

飲料水

Drinking-water

2018年3月

重要な事実

- ・2015年には、世界人口の71%(52億人)が安全に管理された飲料水サービス(屋内に設置されており、必要なときに使えて汚染されていない)を使っている。
- ・世界人口の89%(65億人)は少なくとも基本的サービスは利用している。基本的サービスとは近代的な飲料水供給源で往復30分以内で水をくむことができることである。
- ・8億4400万人は基本的飲料水サービスすら受けておらず、その中の1億5900万人は地表の河川水に頼っている。
- ・世界的には、少なくとも20億人が糞便で汚染された水源の飲料水を利用している。
- ・汚染された水は、下痢症、コレラ、赤痢、腸チフスやポリオなどの疾病の感染源となりうる。汚染された飲料水により毎年50万2000人以上が下痢性疾患を起こし死亡していると推計される。
- ・2025年までに、世界人口の半分以上が水資源の逼迫する地域に住むことになると予測される。
- ・低・中所得国では、保健医療施設の38%に近代的な水の供給源がなく、19%に改良された衛生設備がなく、35%で手洗いの水や石鹼が不足している。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Drinking-water

ファクトシート原文は [こちら](#)